

シュローダー・スナップショット

マルチアセット・ビュー グローバル市場見通し

2025年9月

見通しの表示： ● 強気 ● 中立 ● 弱気 矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ

株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
見通しを強気に引き上げました。米国の景気後退リスクは依然として低いとみるほか、実質金利の低下、堅調な企業業績、財政政策などが追い風になると考えます。	弱気の見通しを維持しています。軟調な米国雇用統計の発表を受けて米国債券市場が上昇したことで、バリュエーションは割高な水準にあるとみています。また、金融市場はインフレリスクを過小評価していると考えます。	中立の見通しを維持しています。米国投資適格社債市場を筆頭に、バリュエーションは割高な水準にあります。一方、シクリカル要因やテクニカル要因が支援材料になるとみています。	エネルギーについて、OPECやOPEC非加盟国からの供給増加により供給過多を見込み、中立とします。一方、金については、実質金利の低下から恩恵を受けるとみて、強気の見通しを維持しています。

資産クラス	分類	見通し
株式	米国	見通しを強気に引き上げました。力強い企業業績を予想するほか、米国経済が景気後退に陥る可能性も低いとみており、さらなる上昇を期待しています。
	欧州	中型株式を中心に魅力的な投資機会が存在するとみていますが、大型株式に対する見通しを弱めており、中立としています。
	日本	関税を巡る不確実性が後退したことやコーポレート・ガバナンス改革の効果を好感するものの、企業業績はその他地域と比較して魅力度は低いと判断し、中立の見通しを維持しています。
	アジア（除く日本）	見通しを強気に引き上げました。中国については、一部経済指標に改善の兆しが見られ、世界株式と比較してバリュエーションが低い水準にあることを好感しています。その他地域については、韓国や台湾の輸出サイクルに回復の兆しが見られています。
	新興国	見通しを強気に引き上げました。中国における、経済成長の安定化や当局の政策スタンスの変化などを好感しました。

最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第90号

加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

Schroders

資産クラス	分類	見通し
国債	米国	 利下げは米国債務問題を緩和する可能性があります。インフレが再燃するリスクを注視しています。また、バリュエーションは割高な水準にあると判断し、弱気の見通しを維持しています。
	欧州	 中立の見通しを維持しています。ユーロ圏のインフレ動向は目標インフレ率と整合的な水準に落ち着いていますが、ドイツにおける構造的な政策改革の欠如は、低成長の長期化を招く可能性があります。
	新興国 (現地通貨建て)	 バリュエーションが割高な水準に近づき、実質金利がマイナス圏にあることから、アウトパフォームする可能性が低下したと判断し、見通しを中立に引き下げました。
	米国インフレ 連動債	 コモディティ価格や家賃の動向により、関税の影響が相殺されるとみて、中立の見通しとしています。
投資適格 社債	米国	 バリュエーションは引き続き割高な水準にあります。シクリカル要因やテクニカル要因が支援材料になるとみて、中立の姿勢を維持しています。
	欧州	 中立の見通しを維持しています。割高感はやや緩和したものの、依然としてバリュエーションは割高な水準にあります。また、フランスの政治情勢が同市場に与える影響は、現在のところ限定的であると考えます。
	新興国 (米ドル建て)	 マクロ動向や需要の改善等が支援材料になると考える一方、バリュエーションが魅力的でないと判断し、中立の見通しを維持しています。
ハイイールド 社債	米国	 キャリー水準、相対的に金利感応度が低いことを好感する一方、バリュエーションが割高な水準にあることを嫌気し、中立の見通しを維持しています。
	欧州	 バリュエーションは依然として魅力的でないと考えます。一方、ヘッジ後利回りが魅力的であるほか、起債市場において旺盛な需要がみられていることから、中立の見通しを維持しています。

最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

資産クラス	分類	見通し
コモディティ (商品先物)	エネルギー	 中立の見通しを維持しています。在庫確保のための中国からの需要により需給バランスが維持されていますが、OPECやOPEC非加盟国からのさらなる供給増加により供給過多になるとみています。
	金	 強気の見通しを維持しています。実質金利の低下から恩恵を受けるとみるほか、財政の持続可能性や中央銀行の独立性を巡る懸念に対するヘッジ機能を提供すると考えます。
	産業用金属	 中立の見通しを維持しています。中国からの需要は底打ちの兆しが見られましたが、中期的には需要を底上げするような材料に欠けるため、中立の見通しとしています。

資産クラス	分類	見通し
通貨	米ドル	 弱気の見通しを維持しています。米国政権の政策による影響を巡る懸念から、ドルは下落基調を維持すると考えます。
	ユーロ	 強気の見通しを維持しています。域内のマクロ経済成長の勢いに支えられています。
	日本円	 中立の見通しを維持しています。政治的な不確実性を嫌気していますが、日本銀行の金融政策から恩恵を受ける局面があると考えます。

本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレーション・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

【本資料に関するご留意事項】 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダー-plcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。

投資で、変化を加速

1870年（明治3年）、日本初の国債発行の主幹事として鉄道敷設に貢献したシュローダー。

この一つの投資が日本近代化の一步となったように、

投資は世界を変えていく力になると私たちは信じています。

「増やす」だけじゃない、よりよい明日をつくる投資を、これからも、皆さまとともに。

